見守りが支える通学路
～スクールガードがつなぐ地域の安心～

子どもたちの登下校を見守るスクールガード。地域の皆さんの声掛けや見守りなどを通して、日々の安全を支えています。今月は、スクールガードの活動や抱えている課題を取り上げるとともに、スクールガードリーダーとして活動する人の、日ごろの見守りで心掛けていることや子どもたちへの思いを紹介します。

◆スクールガードとは

市スクールガードとは、登下校中の子どもたちを不審者などから守り、安全を確保するために行う地域の見守り活動です。平成18年に「滝沢村スクールガード」として組織され、地域の皆さんの協力のもと、活動が始まりました。

主な活動は、不審者の抑止と子どもたちに交通ルールを守るよう呼び掛けることです。市では、活動する人自身の安全を第一に、帽子とベストを着用し、身分証明書を携帯して活動するようお願いしています。



◆見守りをこれからも続けるために

スクールガードの活動が定着し、スクールガードに対する期待や要望が高まっている反面「活動する人の高齢化が進んでいる」「新たな担い手が見つからない」という声があがっており、活動を引き継ぐ担い手が減少していることが課題となっています。



▲登録者数が年々減少している

◆見守る人の声を聞く

子どもや孫が学校に通っていたこと、地域のために何かしたいと思ったことなど、スクールガードとして活動を始めるきっかけはさまざまです。活動する人からは、子どもたちのあいさつや、元気な姿に接することが楽しみだという声も寄せられています。

実際に活動を続けている人は、どのようなきっかけで見守りを始め、どのような思いで、日々の見守りを続けているのでしょうか。市スクールガードリーダーに話を聞きました。





市スクールガードリーダー

熊谷（くまがい） 信雄（のぶお）さん

・平成 20 年からスクールガードとして活動。
・少年補導員としても 35 年にわたり活動中。
・建設業の傍ら、見守り活動に取り組む。

Q リーダーを引き受けたきっかけ

少年補導員を長くやっていて、子どもたちと接する機会も多く、地域のことも知っているからとお願いされました。「孫も学校にお世話になっている」という気持ちもあって引き受けたのがきっかけです。

Q 子どもたちとの関わり方

交差点に立ちながら、あいさつをしたり「朝ご飯、食べてきたか？」と声を掛けています。少し冗談を交えながら、子どもたちとやり取りしています。

Q 感じている課題

登録している人数と、日常的に活動している人数には差があると感じています。以前に比べて人数も減っていますし、年齢や体調のこともあって、続けるのが難しくなる人もいます。

Q 地域の皆さんへ伝えたいこと

地域の子どもたちを守るために、ぜひ手助けしてほしいです。今は、地域の若者と高齢者が関わる機会が少なくなっています。

特にコロナ禍以降は、子ども会などで集まる機会も減ったと感じています。昔の遊びを教えたり、一緒に何かを作ったり、地域の大人と子どもが触れ合える機会がもっとあればいいと思います。子どもたちを見守ることと併せて、地域のつながりもつくりたいです。


▲子どもを見守る熊谷さん

◆無理のない範囲で「ながら見守り」

スクールガードの活動は、決まった場所で見守ることだけではありません。市教育委員会では、できる時に、できる場所で、できる範囲で行う「ながら見守り」を勧めています。登下校の時間に合わせて、普段の生活の中で無理なく取り組むことができます。

スクールガードへの登録は、小学校区ごとに随時受け付けています。活動に関心のある人は、近くの小学校へ問い合わせてください。

※詳細は市ＨＰに掲載しています『』

◆問い合わせ／学校教育指導課（☎656・6585）